

「社会経済的背景(SES)」に関する分析について

～令和7年度 全国学力・学習状況調査における質問調査結果の分析より～

大阪市の学力向上施策は、主に「授業改善」を通じて、社会経済的背景(以下、SES)に左右されない学力向上をめざしています。本号では、令和7年度全国学力・学習状況調査の質問調査結果を活用して、「授業改善」に着目したSESに関する分析を行いました。今後の教育活動の参考にしていただければ幸いです。

SESに関する分析 ～「主体的・対話的で深い学び」との関連～

SESと「主体的・対話的で深い学び」(質問項目32)及び各教科の正答率との関係を分析しました。SESを測る質問項目は、文部科学省の全国学力・学習状況調査の公表資料に準じて「家にある本の冊数」(質問項目22)を利用しています。

三重クロス集計

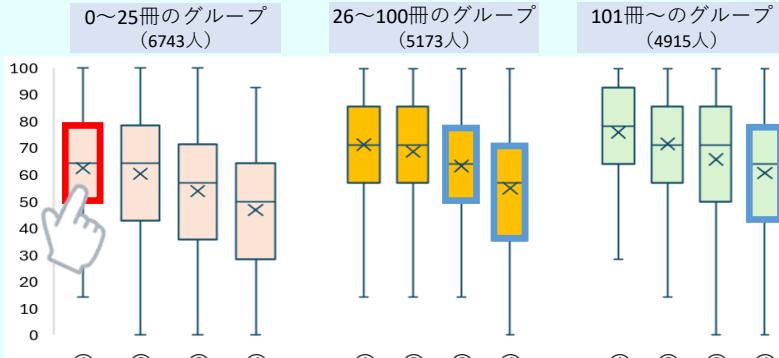
児童生徒質問項目[32][22]

[課題の解決に向けて自分から取り組んだ]×[家にある本の冊数]×[各教科の正答率]

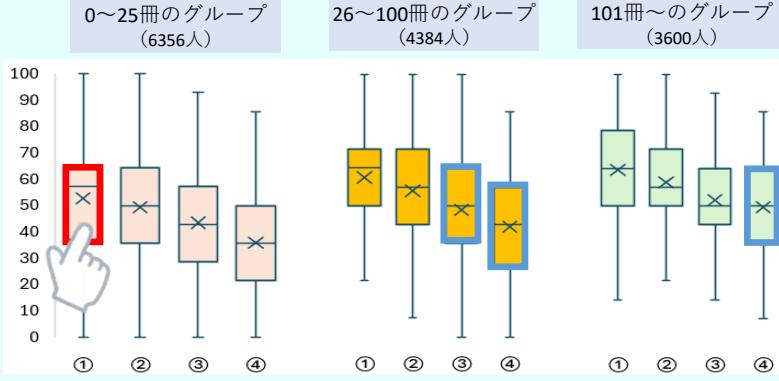
【質問項目32】5年生までに受けた授業（1、2年生のときに受けた授業）では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

- ①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない

【小学校国語】



【中学校国語】



【質問項目22】あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。

高	101冊～
SES	26～100冊
低	0～25冊

<箱ひげ図の見方>

*箱ひげ図は、中央値や四分位値といった統計量を示すことで、データがどのように分布しているかを可視化しています。

← 最大値
データ内の最も大きな値

← 第3四分位数
中央値より上半分の中央値

← 中央値 (第2四分位数)

← 第1四分位数
中央値より下半分の中央値

× … 平均値

← 最小値
データ内の最も小さな値

手番号1は質問項目32に「①当てはまる」と回答し、SESが低いグループに属している児童生徒です。

手番号2は、SESが高いグループにおいて「④当てはまらない」、中間のグループにおいて「③どちらかといえば、当てはまらない」「④当てはまらない」と回答している児童生徒手番号1と比較すると、正答率は高い結果となっています。

各教科の正答率

POINT

「主体的・対話的で深い学び」の質問に「①当てはまる」と回答した児童生徒は、各SESのグループにおいて正答率を表す箱ひげ図が最も上の位置(正答率が高い位置)にあり、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られます。(小学校算数・中学校数学も同様の傾向が見られました)

授業改善の1つとして、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業が重要であるということが分かります。

文部科学省の分析では、ICT機器の活用において各教科の平均正答率との間に相関が見られました。

次ページでは本市におけるICT機器の活用について分析した結果を掲載しています。

SESに関する分析～「ICT機器の活用」との関連～

○質問調査では、ICT機器の具体的な活用方法を問う質問項目【29-1～4】がありました。

あなたは自分が
PC・タブレットなどの
ICT機器で

- 【29-1】文章の作成(文字、コメントなどを書く)
- 【29-2】情報を収集(検索する、調べるなど)
- 【29-3】情報を整理(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)
- 【29-4】学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成

することができると
思いますか

主体的・対話的で 深い学び(※)

【29-1】
(小学校) 0.78
(中学校) 0.77

【29-2】
(小学校) 0.75
(中学校) 0.67

【29-3】
(小学校) 0.81
(中学校) 0.79

【29-4】
(小学校) 0.80
(中学校) 0.79

※質問項目32「5年生までに受けた授業(1、2年生のときに受けた授業)では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」を「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目として分析しています。
※「」内の数値は相関係数を示しています。

POINT

どの質問項目も「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目との高い相関が見られたことから、ICT機器を活用することが「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業をより充実させることにつながります。

次に、ICT機器の活用と教科の平均正答率との分析をしたところ、

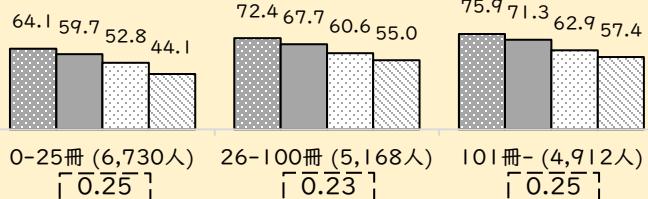
小学校では【29-1】、中学校では【29-4】の質問項目との相関が最も高く見られました。

三重クロス集計：小学校【29-1】…相関係数

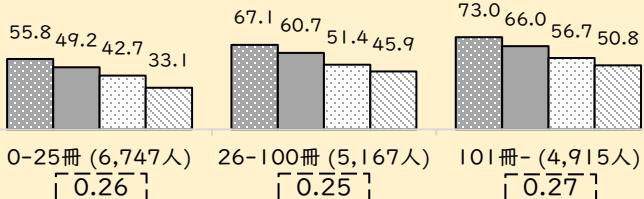
「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか。」

とてもそう思う そう思う あまりそう思わない そう思わない

【国語】



【算数】

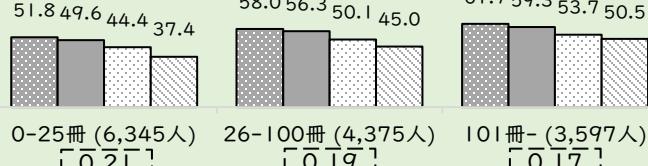


三重クロス集計：中学校【29-4】…相関係数

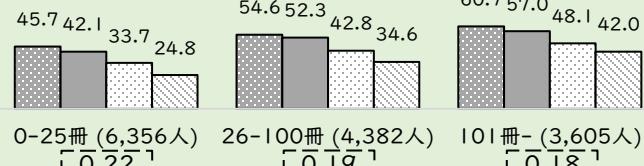
「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか。」

とてもそう思う そう思う あまりそう思わない そう思わない

【国語】



【数学】



POINT

SESが低い状況にあっても、効果的にICT機器を活用している児童生徒ほど、いずれの教科においても平均正答率が高い傾向が見られます。

まとめ

SESが低い状況であっても、「主体的・対話的で深い学び」や「ICT機器の活用」に関する質問項目について肯定的に回答している児童生徒ほど、教科の平均正答率は高い傾向が見られました。児童生徒が一日の中で長い時間を過ごす場所が学校であり、その学校での授業がよりよいものになればなるほど、SESに左右されずすべての児童生徒が「分かった!!」「できた!!」と感じることができるようになると考えます。だからこそ、教師のさらなる授業改善や児童生徒へのサポートが重要です。

